

小学校家庭科学習指導案

指導者 ○○ ○○
(指導担当教員 ○○ ○○)

1. 対象 第6年1組 計40名

2. 日時 令和7年9月10日(水曜)第3校時(○○～○○)

3. 場所 第6年1組教室

4. 指導内容

B 衣食住の生活

「衣食住の生活」の内容には、本単元で取り上げる(4)「衣服の着用と手入れ」、(6)「快適な住まい方」が含まれている。(4)「衣服の着用と手入れ」では(ア)衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること、(イ)日常着の手入れが必要であることやボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること、が身につけるべき知識及び技能として、イ日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫することが、思考・判断・表現の目標として、示された。ここでは、これらについて課題をもって、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用の仕方を工夫することができるようになることをねらいとしている。(6)「快適な住まい方」では(ア)住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること、が身につけるべき知識及び技能として示され、イ季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫することが思考・判断・表現の目標として示された。ここでも、これらについて課題をもって、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用の仕方を工夫することができるようになることをねらいとしている。

5. 単元名 夏をすずしくさわやかに

6. 単元について

①教材観

本単元では、夏の快適な住まい方や衣服の着方と手入れについて、「健康・快適・安全」などの視点から、課題をもって基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、夏をすずしく快適に過ごすための住まい方や着方・手入れについて考え、工夫することができるようにすることをねらいとしている。

日本は四季の変化に富むことから、年間を通じて快適な生活を送るためには、暑さ・寒さへの対処の仕方などを適切に工夫する必要がある。暑い季節には、換気によって室内の気温や湿度を調節したり、服装を工夫して体感温度を下げ、涼しげな色や形など感覚的にも工夫を施してきた。しかし、現在では家電製品に依存するようになり、消費される電力は膨大である。今日では節電は国民的課題となっており、暮らし方の見直しは不可欠である。くわえて、二酸化炭素の排出による地球規模での温暖化問題に対処するためにも現在の生活を見直す必要がある。従って、本単元では、衣生活と住生活を見直し、電力に出来るだけ頼らず、暑い季節を気持ちよく過ごすために必要な知識や技能を身に付け、それらを協力して生活に生かすようにする。

また、夏場は汗をかきやすいので、洗濯などの衣服の手入れは欠かせない。ここでは洗淨実験を踏まえた手洗いの学習を通じて、洗濯の必要性和その適切な方法について理解し、洗剤の量については身近な環境への影響も考えさせる。

なお、本題材の学習にあたっては、理科の第3学年「光と音の性質」、「太陽と地面の様子」、第4学年における空気と温度に関する学習の内容や体育科の第3学年における健康な生活に関する学習内容と関連づけるようにする。

②児童観

6年1組の多くの児童は家庭科の学習に積極的に取り組んでいる。本単元についてみると、衣服に興味をもっている児童は少なくない。しかし、その興味は衣服のデザインが中心である。生活場面に応じた服装や気温や季節の変化に応じた服装の必要性については経験的に理解しているものの、それらを自分で考え、工夫する点については十分とはいえない。

一方、実習や実験を含む学習では、観察力に優れた児童が多く、観察したことに対する考察も優れている。こうしたことから、衣服の手入れにおける洗浄実験の観察では、児童は興味をもって積極的に取り組むものと思われる。

③指導観

第一次では、夏の生活の特徴を挙げさせ、自分の生活を見つめ夏をすずしくさわやかに過ごすために工夫していることや課題を発表させる。教科書のイラストや写真をもとに、暑い季節の暮らしの様子について話し合わせ、課題を話し合わせる。次に、自分のめあて（どのような住まい方、着方をしたいのか）を決めさせる。最後に自分のめあてを実現するには、どのような学習が必要かを話し合い、学習計画をたてさせる。

第二次では、夏を快適に過ごす住まい方について考えさせる。家庭で行っている夏の生活の工夫を発表させたり、教室や校庭の中で一番すずしいところを予想させたりする。教室や校庭の気温や風通し、日なたと日かげの気温や感じ方を調べさせる。「持続可能な社会の構築」の視点から自然の力を活用しどのように住まい方を工夫すればよいのかをまとめさせる。次に、衣服の機能について考えさせ、目的に応じた衣服の着方の工夫について考えるよう指示する。まず、夏になって自分たちの着用している衣服がどのように変化したかを発表させ、自分の衣服の着方に目を向けるよう支援する。次に、自分の服と友人の服を比較させたり、実物見本を観察させたりすることにより、衣服の構造や布の種類について調べるよう指導する。そして、どのような点に注意して衣服を選ぶとよいかを話し合わせ、生活の目的に応じた衣服を選ぶことの重要性和着方の工夫について理解できるよう指導する。

さらに、ここでは衣服の手入れの必要性を理解させるため、暑い季節には、汗や汚れがつきやすく、着心地も悪くなることを確認させ、衣服を気持ちよく、大切に着るための手入れの仕方について発表させる。次に、簡単な洗浄実験によって、前もって汚した布Aと汚れて間もない布Bを洗い比べて、早く洗うと汚れが落ちやすいことを確認させ、洗濯の必要性をおさえる。そして、洗剤の量による汚れの落ち方を確認し、環境を守る洗濯の重要性について理解させる。加えて、布の種類によって洗える服と洗えない服があることに気づかせ、品質表示や取り扱い絵表示を見る必要性を理解させたい。これらを踏まえて、洗濯実習を行う。

第三次では、これまで学習したことを振りかえるよう指示する。電気やガスなどのエネルギーを必要以上に使わず、自然を利用した暮らし方を考えさせ、夏休みの家庭実践計画をたてさせる。実践計画を発表させ、実践への見通しをもたせる。最後に、地域で取り組んでいる活動に注目させ、人々が協力して取り組むことの重要性を理解させる。

7. 単元目標

- ・住まいの働きや季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について理解しているとともに、日常着の手入れの仕方を理解し、適切にできる。(知識及び技能)
- ・季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。(思考力、判断力、表現力等)
- ・家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方や衣服の着用と手入れについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・住まいの働きや季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について理解している。 ・日常着の手入れの仕方を理解し、適切にできる。	・季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	・家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方や衣服の着用と手入れについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

9. 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
第一次	1 本時	夏の生活の特徴から、工夫していることを見つけよう。	イラスト（p.86）を見るポイント（日光、風、音、着方）を与え、夏の快適な過ごし方を具体的に考えさせることを通して、問題や課題に気づくことができる。 ・住まいの主な働きが分かる。 ・季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定している。
第二次	2 3 4 5 6 7	夏に快適に過ごすための住まい方や衣服の着方、手入れができるようになるう。	夏を快適に過ごすための住まい方や着方、手入れ、洗濯のポイントを与え、なぜそうするのかを具体的に考えさせることを通して、理解を深め、適切に工夫できる。 ・季節の変化に合わせた生活の大切さや夏の住まい方について理解している。 ・衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解している。 ・日常着の手入れが必要であることや洗濯の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 ・季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について、さまざまな解決方法を考え、工夫している。 ・快適な住まい方や衣服の着用と手入れについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
第三次	8	これまで学習したことを生かして、自分の生活を見直し、夏の住まい方や着方の工夫を計画しよう。	「活動」や手順を確認させ、実践を具体的にふり返ることを通して、改善したい点や新たな課題に気づくことができる。 季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。

10. 本時の学習

①本時の目標

- ・住まいの主な働きや衣服の着方が分かる。（知識及び技能）
- ・季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定している。（思考力、判断力、表現力等）

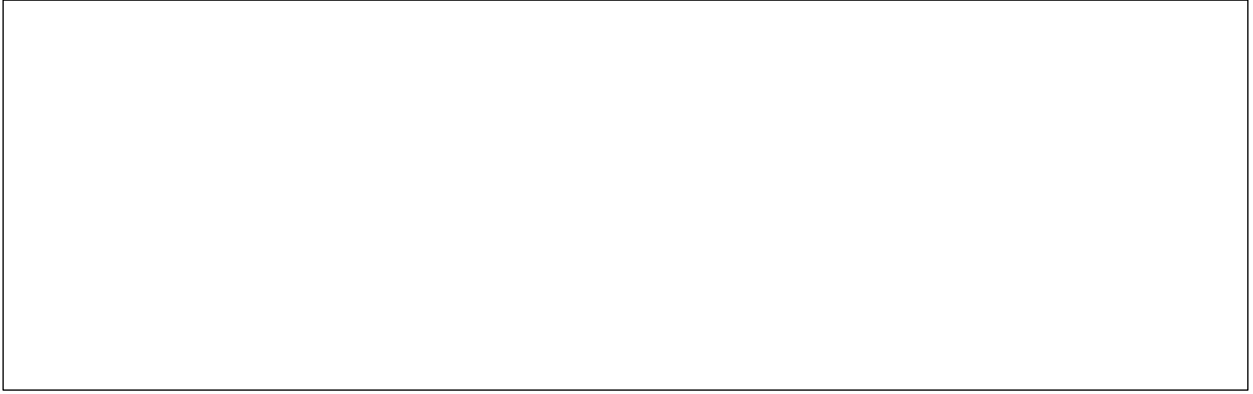
②本時の展開

区分	学習活動と内容 (○教師の発問と・予想される児童の反応)	指導上の留意点・支援・評価 ・留意点◇教師の支援■評価の観点と方法	準備物・ 資 料 な ど
導入	○夏の生活の特徴を発表して下さい。 ○夏をすずしく、さわやかに過ごすために工夫していることを発表して下さい。 ○夏の生活で困っていることを発表して下さい。 ・ 本時の学習内容について知る。 ・ 夏の生活の特徴を挙げる。 ・ 自分の生活を見つめ、夏をすずしく、さわやかに過ごすために工夫していることや課題を出し合う。	・ 発問への反応をみて、発問の内容を変化させ、児童の発言を促す。 ◇指示が正しく伝わっているかを個別に確認するよう支援する。 ■季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について問題を見いだしているか	
展開	夏の生活の特徴から工夫していることをみつけ学習計画を立てよう ○夏の生活にどのような工夫と課題があるか、教科書P. 86 のイラストをみて話しあってください。 ・ 衣服の着方、住まい方の工夫を話し合わせる。 ・ 教科書P. 86のイラストをみて、夏の生活にどのような工夫と課題があるか、話し合う。 ○どのような住まい方や着方がしたいですか。各自でその理由も考えてワークシートに記入して下さい。 ・ 自分のめあて（どのような住まい方、着方をしたいか）を決める。	◇話し合いが深まるように各班に個別指導を行う。 ◇上の部屋では対面の窓やドアを開けて風通ししていることに気づかせる。 ・ 外では打ち水をしたり、すだれやうちわを利用したりしていることから、自然を利用する生活の仕方「持続可能な社会」の視点にふれる。 ■活動に積極的に参加しているか ◇工夫や課題の理由や意味を問うことで、住まいや衣服の役割、夏の生活の特徴（夏の気温や湿度などの地域の気候）と通気性、環境への配慮に関連づけて考えられるようにする。 ・ ゆかたやすだれ、風鈴など伝統的な暮らし方のよさにふれるようにする。 ◇児童から出された事例をもとに自分の生活を見つめ直し、自分が工夫したいことを実現できるよう、指導する。 ■住まいの主な働きや衣服の着方が分かるか	教科書 ワークシート
まとめ	・ 自分のめあてを実現するには、どのような学習が必要かを話し合い、学習計画を立てる。 ○自分のめあてを実現するには、どのような学習が必要か、話し合ってください。	・ 自分が工夫したいことや課題を出し合わせる。 ■活動に積極的に参加しているか ○話し合いができた人は学習計画を立ててワークシートに記入して下さい。 ・ めあての例：地球にやさしく快適な夏を過ごせる住まい方や衣服の着方を工夫したい。 ・ 学習課題の例 住まい方、衣服の着方、洗濯の仕方 ■季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について問題を見いだして課題を設定しているか。	ワークシート

③評価の観点と方法

- ・ 住まいの主な働きや着方が分かるか（知識・技能）・ 季節の変化に合わせた夏の住まい方や衣服の着方について問題を見いだして課題を設定しているか。（思考・判断・表現）
- ・ 活動に積極的に参加しているか（主体的に学習に取り組む態度）

③板書計画 省略



④配布プリント 省略